

暖かい配慮に心躍らす

在日チョソン商工人
カルシューズ100万

に発注されたケミ
足 第1陣 祖国へ

愛国的な同胞商工人たちはいま、敬愛する首領キム・イルソン主席のあたたかい配慮と直接的な導きによって大きな転換期を迎え、新しい発展への熱意でわきたっている。

キム・イルソン主席は、昨年2回にわたって在日同胞商工人代表団を祖国に招き、あたたかく迎えてくれただけでなく、同胞商工人が、今後、できるだけ生産業に転換し、祖国の社会主義建設に寄与するように教えた。そして、原料資材は、祖国にあるものはほとんど供給するし、できた製品はまた祖国が買い上げてやるという配慮をめぐらしてくれたのである。

その具体的な措置として、さる2月、さっそく祖国の「錦水山貿易商社」を通じて、神戸市の同胞生産業者が生産したケミカルシューズ100万足を買いとるという注文が来た。

同胞商工人たちは、はじめ夢ではないかと目を疑った。しかし、注文書にはまぎれもなく「チョソン民主主義人民共和国錦水山貿易商社」とはっきり記入されている。

同胞たちは、さっそく感謝集会をひらき、キム・イルソン主席に心からの感謝を捧げるとともに、全力をつくして注文どおりの靴をつくりあげ、主席の厚い配慮にこたえようと誓い合った。

「私の造る靴が祖国に送られ、そして祖国の同胞がはくのかと思うと、腹の底から力が

わいてくる」、「いくらがんばっても、靴底のように踏みこじられ、苦しい思いをしてきたが、これで倒産せずにすむ。今日からは堂々と道のまん中を歩くと、口々に喜びを語る同胞たち。

日本ケミカルシューズ工業組合の大沢伸剛理事長も、「海外同胞にこれほど気を配る元首は世界にもいないでしょう。私はピョンヤンに行って、直接主席にお礼申し上げたい」と語った。

同胞業者は、具体的な注文書を持って兵庫製靴協同組合を結成し、いっせいに生産を開始した。

広く知られているように、日本のケミカルシューズ総生産量の90パーセント以上が神戸市の長田区周辺で生産されている。

この地域には生産業者が450社ほど集中しており、その50パーセント以上が同胞業者である。

値段の安さとデザインの豊富さで一世を風びしたケミカルシューズは、兵庫県の特産業でも3番目に数えられ、輸出量は70年当時で50パーセントにも達し240億円にもなった。

それが、二度におたるドルショックと、イタリアの高級靴と台湾の「1ドル物」のおおりにくって急降下をたどり、73年には輸出量は35パーセント（20億円）までおち、今年はさらに減少している。

「私のつくった靴が祖国に送られ祖国の同胞がはくんだ」と生産にも熱が入る



できあがった製品を検討する同胞生産業者たち

そこへもってきて、昨年からの石油危機に見舞われ、ケミカルシューズ産業はかつてない打撃を受けた。

原料資材は極端に不足し、しかもそれを握っている独占商社は力の弱い業者には売ろうとしない。値段はほとんどんつり上げられ、その上支払い手形は、今まで3ヵ月〜4ヵ月だったものが60日に制限され、それも半分は現金でなければいけないというしめつけぶりである。

当然のことながら、同胞業者の中でも倒産するもの転業するものがつぎつぎと出て来た。こうした時期に、祖国から100万足の注文が来たのである。金額にして13億円。現在の輸出高の70〜80パーセントに匹敵する。

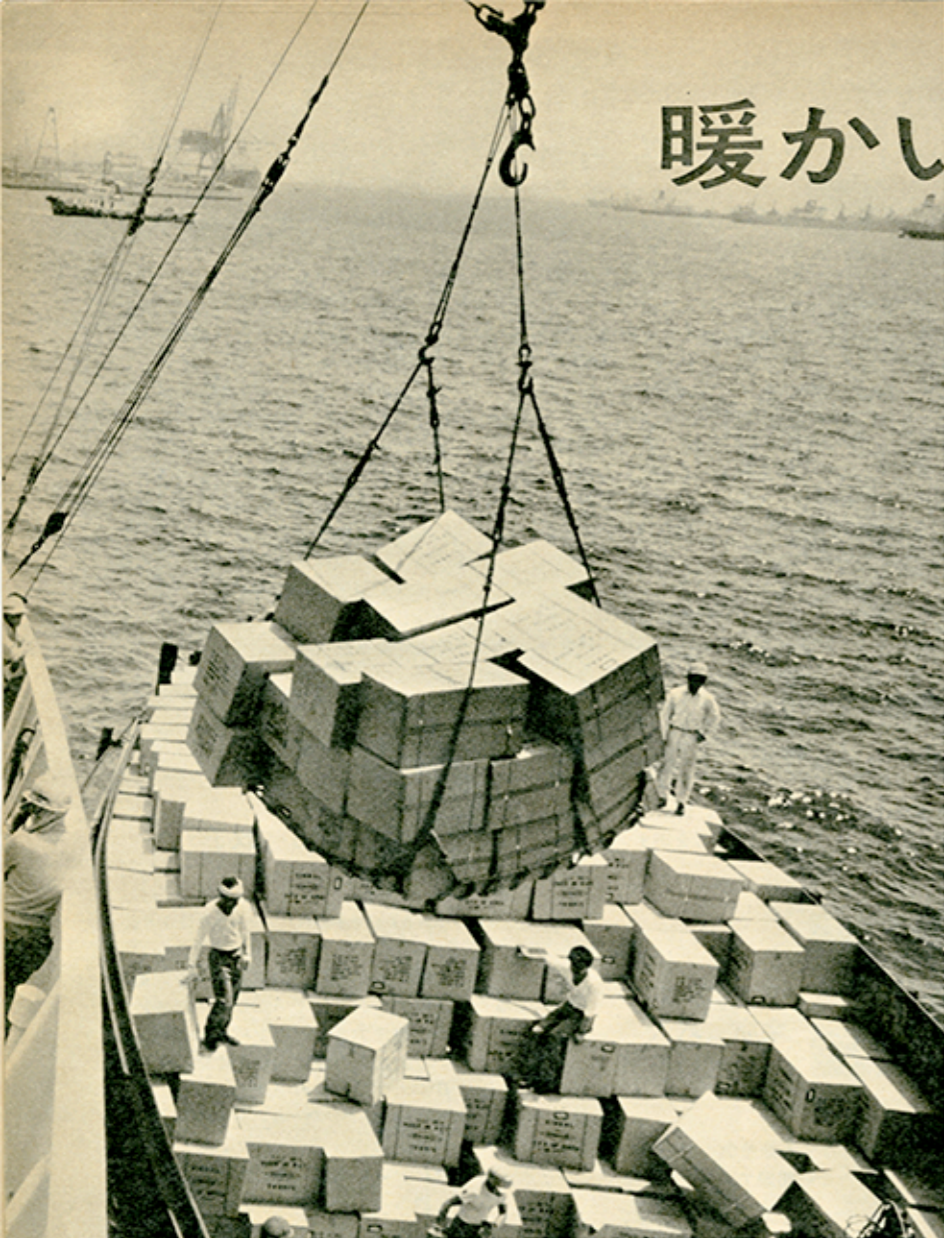
同胞生産業者にとって、この注文は、まさに生命の綱であった。そればかりか、祖国からの注文は、各地の同胞商工人はじめ60万在日同胞に限りない誇りと希望の灯をもたらしてくれたのである。

いま、西神戸の兵庫製靴協同組合には、色とりどりの完成品がもち込まれ、事務所は明るい話し声で活気にあふれている。

キム・イルソン主席の在日同胞にたいするつきない愛と配慮、それにこたえようと昼夜をわかつた努力してきた、同胞商工人たちの主席にたいする忠誠心の結晶である100万足の靴の一部が、祖国の貿易船「マンギョンボン号」に積まれ、6月2日、神戸港から祖国へと向かった。

靴底のように踏みこじられてきた同胞業者も祖国の配慮によって、誇らしい生活ができるようになった

西神戸の同胞商工人たちは主席のあたたかい配慮にたいする感謝集会をひらき必ず期待どりの靴をつくり出すという誓いの手紙をおくった



主席にたいする在日同胞商工人の忠誠心の結晶がマンギョンボン号に積まれ祖国に送られた(神戸港で)出船を見送る同胞商工人たちの顔には感謝と喜びがあふれていた(7)

